

森に 育まれた 仕事 手仕事

奥会津



遠く、遠く縄文の頃より、人は道具を作ってきた。
命を伝えるために、作る技を伝えてきた。
道具を伝えることは、自然との営みを伝え
受け継ぐことでもある。

遠く、遠く旧石器や縄文の頃より、人は道具を作ってきた。命を伝えるために、作る技を伝えてきた。

道具を伝えることは、自然との営みを伝え、受け継ぐことでもあった。人も自然の一部、共に歩んできた。

どうもこの時代、利便と経済性が無機質のものを必要以上に溢れさせてきた。いずれ人までもそうなりかねない。

奥会津のいまだ盛んな手仕事は、心温まる生活賛歌、豊かな自然の詩である。

この豊かな森を誇りたい。喜び合いたい。

渡部 繁信

いのちを伝える

ときに強く、深く、そして優しく。作り手の手仕事への思いは、その歴史をも写しだす。生きる技として、親から引き継いできた。村の共同作業小屋で先輩の手解きも受けた。ある古老は「捨ててあるザルをほどこいて覚えた」と言った。ものづくりは楽しい時間である。無心になれる、一心になれる。何よりも作っている今が楽しい。

作り手の口数が少ない分、手が語り、作られた「もの」が語る。自然のありがたさ、想う心が息づく。

だから使う人を楽しくさせる。



長郷千代喜さん

